

神に喜ばれるために

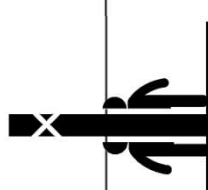


Iテサ一4:1

さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願ひ、また勧めます。
あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。
そして、現にそのように歩んでいますが、どうか、その歩みを今後も更に続けてください。

折に触れて、力と栄光に満ちたこのわたしは何ものなのか、ということに想いを巡らせ、
私のあなたへの愛がどれほど深く、どれほど広いものであるかを考えなさい。

すべてにおいて公平なる神



詩	<p>9:8 主は裁きのために御座を固く据え/とこしえに御座に着いておられる。</p> <p>9:9 御自ら世界を正しく治め/国々の民を公平に裁かれる。</p> <p>45:7 神よ、あなたの王座は世々限りなく/あなたの王権の公平の笏。</p> <p>75:3 「わたしは必ず時を選び、公平な裁きを行う。75:4 地はそこに住むすべてのものと共に/溶け去ろうとしている。しかし、わたしは自ら地の柱(→天を支えている高い山々)を固める。</p> <p>96:10 国々にふれて言え、主こそ王と。世界は固く据えられ、決して揺らぐことがない。主は諸国の民を公平に裁かれる。</p> <p>98:9 主を迎えて。主は来られる、地を裁くために。主は世界を正しく裁き/諸国の民を公平に裁かれる。</p>
イザヤ書	<p>32:15 ついに、我々の上に/霊が高い天から注がれる。荒れ野は園となり/園は森と見なされる。32:16 そのとき、荒れ野に公平が宿り/園に正義が住まう。</p>
エレミヤ書	<p>33:15 その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める。</p>
ホセア書	<p>2:21 わたしは、あなたととこしえの契りを結ぶ。わたしは、あなたと契りを結び/正義と公平を与え、慈しみ憐れむ。</p>
ペトロの手紙 I	<p>1:17 また、あなたがたは、人それぞれの行いに応じて公平に裁かれる方を、「父」と呼びかけているのですから、この地上に仮住まいする間、その方を畏れて生活すべきです。</p>

No walls needed

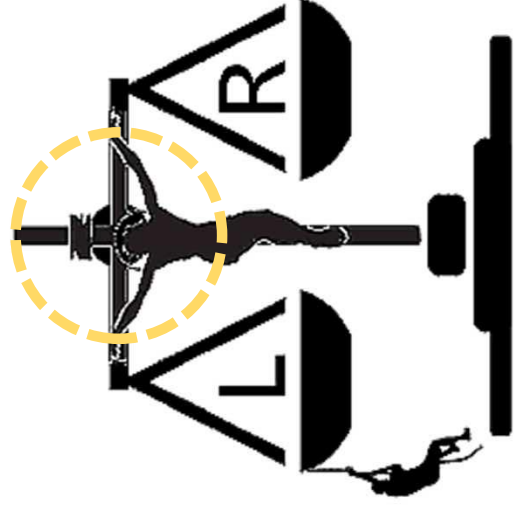
神の愛と神の義(正義)

ヨハネの手紙一 4：8～9

愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、**神の愛**がわたしたちの内に示されました。

詩編60(108)：7a あなたが愛する人々が助け出されるように／右の御手でお救いください。

II コリ6：7b 左右の手に義の武器を持ち、

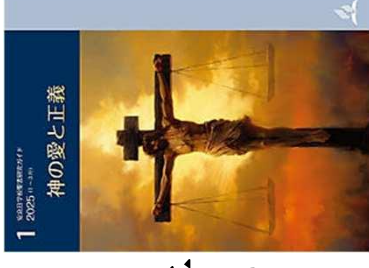


詩編 116：5

主は憐れみ深く、**正義**を行われる。わたしたちの神は情け深い。

ローマの信徒への手紙3：25

神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今ままで人が犯した罪を見逃して、**神の義**をお示しになるためです。



「放蕩息子のたとえ」(ルカの福音書15章11～32節)＝神と人間との関係に関する重要な真理

➡中心となるメッセージ: **神の無条件の愛と赦し**

➤神から離れることで起こる**人間の罪(過ち)**＝放蕩息子は、父からの贈与財産を浪費してしまいが、これは人間が神から与えられた自由意志を誤って用い、自己中心的な生き方を選んだことの過ちを象徴している。

➤**悔い改めと神への立ち帰り**＝放蕩息子がすべての財産を失い、苦境に立たされたとき、自分の罪(過ち)を認め、「父のもとに帰ろう」と決心する。これは、悔い改めの重要性を示している。

➤**神の赦しと愛の深さ**＝父親は息子が帰ってくるのを待ち続け、遠くから彼を見つけると、喜びとともに迎え入れます。この父親の態度は、神の無条件の愛を象徴しています。神は私たちが過ちを犯しても、その帰還を心から待ち、完全に赦す姿を示している。

➤**無償の愛(恵み)**＝兄は父親が放蕩息子を祝うことに不満を持つ。これは、神の恵みが人間の「公平」の概念を超えていることを示している。神の愛は功績や行いによるものではなく、無償である。

➤**神の家族の回復**＝父親は「この息子は死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」と語ります。これは、罪によって失われた神との関係が回復されたことを示している。

「放蕩息子のたとえ」は、神がいかに私たち(道を踏み外した一人一人)を**憐み愛し、赦しを与え、関係を回復させることを望んでいるかを教えています。また、人間はどれほど遠くまで迷い出ても、神の下に戻る道は常に開かれています。**

聖書は「神に喜ばれるために」どのように生きるべきか、多くの教えを記しています。

1. 神を愛すること
 - 『心を尽くし、精神(魂)を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』(マタイ 22:37b)
2. 隣人を愛すること
 - 第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』(マタイ 22:39)
3. 神の戒めを守ること
 - 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。」(ヨハネ 14:15)
4. 謙遜と感謝
 - 「主の前にへりくだりなさい。」(ヤコブ 4:10a)
 - 「どんなことにも感謝しなさい。」(1 テサ 5:18a)
5. 信仰を持つこと
 - 「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。」(ヘブル 11:6)

6.正義と親切を行うこと

→「人よ、何が善であり／主が何を前にお前に求めておられるかは／お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである。」(ミカ 6:8)

7. 善い行いと施し

→「善い行いと施しとを忘れないでください。このようないけにえこそ、神は**お喜び**になるのです。」(ヘブル 13:16)

→ **神に喜ばれる**ためには、愛、信仰、謙虚さ、感謝、そして隣人への善行を実践し、日々神の御心を求めながら生きることが大切です。

神はすべての人を愛しておられる(エフエソ2:4~5)

しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるので
す——

箴言6:16

主の憎まれるものが六つある。(主が)心からいとわれるものが七つある。

- 17 ①驕り高ぶる目(A proud look)、②うそをつく(偽りを語る)舌
- ③罪もない人(無実の人)の血を流す手
- 18 ④悪だくみを耕す心、⑤悪事へと急いで(急いで悪に)走る足
- 19 ⑥a欺いて発言する者、bうそをつく証人
(a+b = 口語訳、聖書協会共同訳:虚偽を語る偽りの証人)
- ⑦兄弟の間にいさかいを起こさせる者(兄弟の間に争いを引き起こす者)。

→「自分の考え、やっている事は間違いない」「これだけががんばっているのに、何故わかからないのか」と思っている 等々

20 わが子よ、(あなたの)父の戒め(=訓戒)を守れ。／母の教えをおろそかにするな。

My son, keep thy father's commandment, and forsake not the law of thy mother:

豊かな人生の秘訣 第21章 働きと報酬

わたしたちの働きを神に受け入れられるものにするのは、働きの時間の長さではなく、**働きの長さを喜んで、忠実にする精神**である。わたしたちのすべての働きにおいて、自己を全く降伏させることが要求されている。真心から、おのれを忘れて行った**最も小さな義務は、利己心に汚された最も大きな働きよりも、神に喜ばれるのである。**

神は、わたしたちが、どれほどキリストの精神を抱いているか、また、わたしたちの仕事がどれほどキリストのみ姿をあらわしているかをごらんになる。

神は、仕事の量よりも、わたしたちの仕事に対する愛と忠実さの方を尊重されるのである。

各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。

喜んで与える人 a cheerful giver を神は愛してくださるからです(IIコリ 9:7)。

ホセア書14：2～5

イスラエルよ、立ち帰れ／あなたの神、主のもとへ。あなたは咎につまづき、悪の中にいる。誓いの言葉を携え／主に立ち帰って言え。「すべての悪を取り去り／恵みをお与えください。この唇をもって誓ったことを果たします。アッシリアはわたしたちの救いではありません。わたしたちはもはや軍馬に乗りません。自分の手が造ったものを／再びわたしたちの神とは呼びません。親を失った者は／あなたにこそ憐れみを見いだします。」

わたしは背く彼らをいやし／喜んで彼らを愛する。まことに、わたしの怒りは彼らを離れ去った。→神の変わらぬ愛

הֲנִי יְרֵאָה

神の民の度重なる反逆のあとに、神はこう宣言されました。「わたしは背く彼らをいやし／喜んで彼らを愛する。まことに、わたしの怒りは彼らを離れ去った」(ホセ14：5〔口語訳14：4])。「喜んで彼らを愛する」という句の中の「喜んで」(英語では“freely”)という言葉は、ヘブライ語の「ネダバー」を訳したもので、自発的にささげることを意味します。これは、聖所の制度における随意の献げ物に用いられている言葉と同じです。

すべての真の服従は心から生まれる。キリストにとって、それは心の働きであった。もしわれわれが承知するなら、キリストはわれわれの思いや志と一体となり、われわれの心と思いを一つにしてご自分のみ心に一致させてくださる。そうすれば、われわれは自然と神を喜ばせることができるようになる。意志は洗練され、きよめられて、主のご用をなすことに最高の喜びを見いだす。神を知ることはわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることはない服従の生活となる。キリストのご品性の真価を認めることによって、神と交わることによって、罪はわれわれにとって憎むべきものとなる」(『希望への光』 1026ページ、『各時代の希望』 第73章)。

「すべての真の服従は心から来るものです。キリストとの関係も心の働きでした。そして、もし私たちが同意するなら、キリストは私たちの思いと目的に自らを完全に一致させ、私たちの心と思いを、キリストのみ心に従うように調和させてくださいます。そうすることで、私たちが彼に従うとき、それはまるで自分自身の意志を実行しているかのようになるでしょう。洗練され、聖別された意志は、キリストのご用を行うことに最高の喜びを見出すようになります。私たちが神を知るとき、私たちの生活は絶え間ない服従の生活となるでしょう。キリストの品性を理解し、神との交わりを通して、私たちは罪を嫌悪するようになるのです。」

「人は居なくなるのではなく、また、会う時の楽しみのために一時離ればなれになるだけのことです」(小松帯刀)

「そうですね、こうして私たちも また、会えたのですから」(天璋院篤姫)

「次に会う時まで元気です」(篤姫)

「そうですね、次に会う時まで」(小松帯刀)

「人の幸せとは、地位や名誉（にあるのではなく）
そして気のおけぬ友や家族と共に過ごす穏やかな日々の
中にあるのだと思っております」(篤姫)



詩編97:10 主を愛する人は悪を憎む。
主の慈しみに生きる人の魂を主は守り／神に逆らう者の手から助け出してくださる。